

薬物乱用防止教室 2022年3月11日(金)

1年生対象の薬物乱用防止教室が実施されました。講師として宇部警察署生活安全課少年サポートセンターより小玉素美代様をお招きして、薬物の危険性、薬物を使用しない強い意思をもつことの大切さなどのお話をいただきました。また、実際に薬物を使用した人の事例を映像でみて、より危険で恐ろしいものであることを再確認しました。



【生徒の感想より】

一度体内に入れてしまうと、考えられないくらいの恐ろしい症状が、時限爆弾のように出てきて本当に恐ろしいことが分かりました。自分だけでなく周りにいる大切な人も傷つけてしまうということも心に残りました。

薬物を経験した人の話の中に、薬物をやめて10年経っても薬物による体と心への影響は残ってしまうということを聞いて、一度の乱用で人生を狂わせてしまうものだ改めて薬物の恐ろしさを知りました。

宇部市にも薬物使用者がいると聞くとぞっとします。使用した人達に、ちゃんとした理由はなく、軽い気持ちから手を出す人が多いことも分かりました。誰に誘われようとしっかり断って、すぐに身の回りにいる大人へ相談したいです。

仲間から誘われても、自分で自分を守るために、絶対に断ります。薬物を乱用する人が少なくなるように自分たちでできることを考え行動していこうと思います。

防災学習 2022年3月16日(水)

『3・11を語りつぐ会』の代表でフリーアナウンサー、朗読家の渡辺祥子さんをお招きしての講演会を行いました。「困難を希望に変える力」～3.11. 10年後のことづて～というテーマで震災当時の実体験を交えたお話をいただきました。『ユーモアの力』『自分を超越する力』『当たり前大切さ』など、被災地で懸命に生きる人々のエピソードを写真を交えて紹介され、生徒たちはじっくりと一つ一つのエピソードに聴き入っていました。



生徒会長 お礼の言葉

【生徒の感想】

当たり前の日常も特別な日だと思った。震災で家も仕事も大切な人も流されてしまったのに、毎日力強く生きている人の話を聞いて感動した。今日という今はあるけど明日という未来があるとは限らないと身に染みて感じた。

地震がいつ来るか分からないと怖がっているのではなく、その時に自分への被害を減らすために、今何ができるか、改めて考えようと思った。

今日のお話の中で印象に残ったエピソードは、震災で何もかも流され何も無くなったと思っていたお母さんに「ゆうすけにはこわれたふるさとがあるんだよ」と言った4歳のゆうすけ君の言葉です。本当に人の言葉で前向きに生きたり人を救えるんだなと思いました。

「人は1人では生きられない」だが「1人の手は何でもできる。」という言葉が心に残りました。1人だと不安で何もできないかもしれないけれど、1人の手で、人を助けることができる。このことから、いろんな人に手を差し出せる人になりたいと思いました。

一番印象に残っていることは「私が一本の藁になる」という山根さんの言葉です。手紙を出して「自分たちの街で講演会を行ってください」といえる行動力に感動しました。これからは自分の生活を改め、自分にできることを全力で努めていきたいです。